



初穂曳（陸曳）



「お木曳」「お白石持」という、ご遷宮に関わる民俗行事を伝承し、また神嘗奉祝の主軸として行われている「初穂曳」。外宮領・陸曳は、神宮の奉曳車を使い伊勢神宮奉仕会青年部が運営実務を行っています。

今年も三台の奉曳車には「お木」「樽」「米俵」が積み、お初穂が飾られました。車には雨よけのシート、そしてレインコート姿の曳き手となりましたが、一番車に子どもたちや皇學館大学生、二番車には伊勢の町衆、三番車には県内外の特別神領民など、約1500名が、エンヤの掛け声で元氣よく奉曳し、お初穂やお米を持つて、外宮へ奉納しました。

16日の内宮領・川曳もあいにくの雨模様。寒い一日でしたが、今年は長峰連合奉献団が運行を担当、無事内宮へ奉納されました。



初穂曳（川曳）

第46回 初穂曳

伊勢の民俗行事を次世代につなぐ初穂曳。外宮・陸曳では、三台の奉曳車に初穂を積んで、子どもたち、大学生、伊勢の町の若い衆にも参加していただいています。



Q

初穂曳はいつからはじまったの？

4年後（2021年）には第50回を迎えます。初穂の奉納行事はそれ以前からありましたが、伊勢市民が参加でき、大祭りの核となる行事に、という思いと民俗行事「お木曳行事」「お白石持行事」の伝統継承という意義を踏まえ昭和47年から行われています。以来、実施母体等の移行や、大祭りが土曜・日曜の開催になるなどの変動はありましたが、今年の第46回まで初穂曳は例年10月15日・16日に実施されてきました。事前申込をすれば、伊勢市民はもちろん、市外の方も特別神領民として奉曳にご参加いただけます。



田植え（4月29日）



稲刈り（8月27日）



奉納のための稲束作り



奉曳車に米俵など荷積み



お初穂を外宮へ奉納



15日／全国各地からのお祭り踊り連がひとつになる神嘗奉祝祭ならではの「総踊り」（大通り会場）

神嘗奉祝祭 報告

十月十四日（土）・十五日（日）・十六日（月）
かななめほうしゅくさい

神宮の神嘗祭とともに祝い、収穫の喜びと五穀豊穡の感謝を分かち合う神嘗奉祝祭。伊勢だけの行事ではなく「祭のまつり」として日本各地から著名なお祭りが伊勢に集い、神宮への感謝の想いを込めて、踊りや舞いなどを奉ります。各地で伝統芸能、文化を守り継ぐ18団体が来勢しました。前夜祭は土曜日の夜ということもあり、サンアリーナ会場も大盛況、華やかな響演となりました。15日外宮前は、あいにくの小雨模様でしたが、観光の方をはじめ、多くの観客に足を運んでいただけており、演者の皆さんには無理のない範囲でご披露いただきました。すべての演目が終了した後は、各団体揃って、それぞれ地元から携えてきた一握りのお米をもつて外宮へ参拝し、ご奉納されました。



14日／サンアリーナでの前夜祭のようす



第17回 神嘗奉祝祭「祭のまつり」

伊勢へ集い、みんなで祝い。雨の中でも笑顔いっぱいのお祭り

神嘗祭をお祝いする伊勢のお祭り「神嘗奉祝祭」。日本各地の著名なお祭りが例年これだけ揃うのも「お伊勢さん」だからこそ。ご参加ご協力いただきました方々に感謝申し上げます。